

11年度第1四半期 決算説明資料

2011年7月29日

沖電気工業株式会社

※億円単位の数値の表示方法について:

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。

※本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

130th
Anniversary

本日のご説明内容

1. はじめに
2. 第1四半期決算について
 - 1-1) セグメント情報
 - 1-2) 営業利益の変動要因
 - 1-3) P/Lの概要
 - 1-4) B/Sの概要
 - 1-5) キャッシュフローの概要
3. 第2四半期累計期間 業績予想について

はじめに

10年度通期決算発表(5月13日)において公表を見送りました第2四半期累計の業績見通しにつきまして、当初懸念された部品調達や電力供給などのリスクも概ね解消いたしましたので、最近の状況および業績動向などを踏まえて本日お知らせいたします。

本日のご説明内容

1. はじめに
2. 第1四半期決算について
 - 1-1) セグメント情報
 - 1-2) 営業利益の変動要因
 - 1-3) P/Lの概要
 - 1-4) B/Sの概要
 - 1-5) キャッシュフローの概要
3. 第2四半期累計期間 業績予想について

セグメント情報 サマリ

■第1四半期の業績は、売上高が情報通信セグメントを主体に増収。
営業利益は、固定費削減効果などにより大幅に改善

【対前年同期比較】

- 売上高は、13億円の増収(うち、為替による減少7億円)
 - ・情報通信セグメントは、ATM監視・運用サービスの増加や社会システムでの10年度からの期ズレなどにより増収
 - ・プリンタセグメントは、為替影響などにより減収
 - ・EMSセグメントおよびその他の事業は、ほぼ前年並み
- 営業損益は、75億円の改善(うち、為替による増加5億円)

ATM: Automated Teller Machine
EMS: Electronics Manufacturing Service

(単位:億円)	11年度		前年同期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報通信	467	15	447	△16
プリンタ	268	△9	275	△47
EMS	69	1	66	0
その他	34	6	37	5
消去・本社費	—	△16	—	△20
合計	838	△3	825	△78

セグメント情報【情報通信】

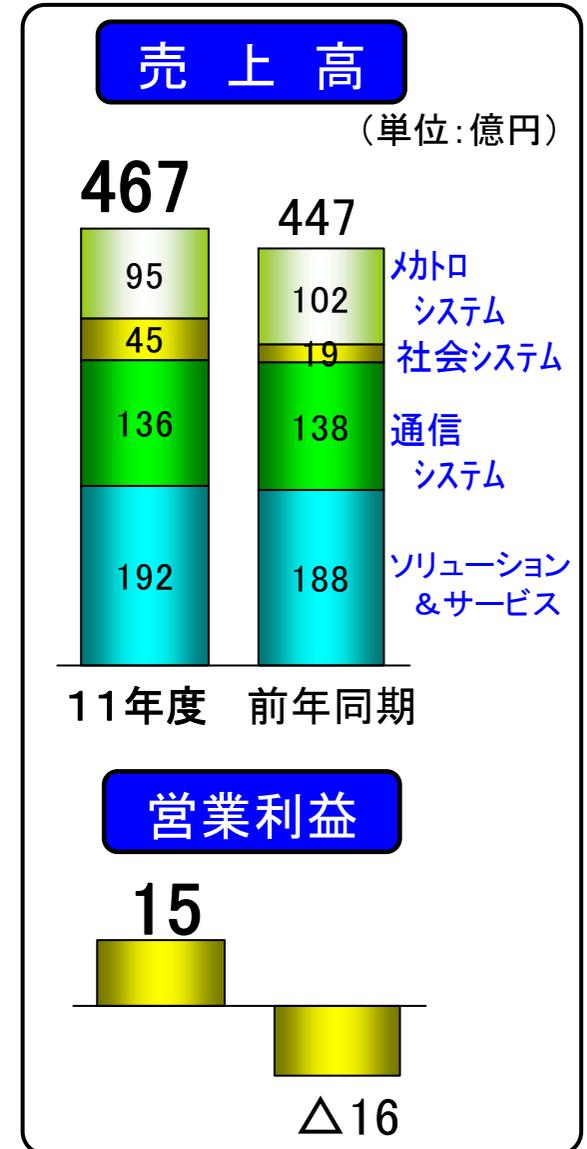
■ 売上高

- ソリューション＆サービス：
ATM監視・運用サービスなどの増加により増収
- 通信システム：
GE-PONの増加や保守・工事の増収などによりほぼ前年並み
- 社会システム：
防災システムなどの10年度からの期ズレなどにより増収
- メカトロシステム：
国内向けATMは堅調、現金処理機なども増加、
中国向けATMは売上時期の関係で一時的に減収

■ 営業利益

物量増加や機種構成差、調達コスト低減およびVEに加え、固定費削減効果により、価格下落などを吸収し31億円増益

GE-PON : Gigabit Ethernet Passive Optical Network VE: Value Engineering



セグメント情報【プリンタ】

■ 為替による影響

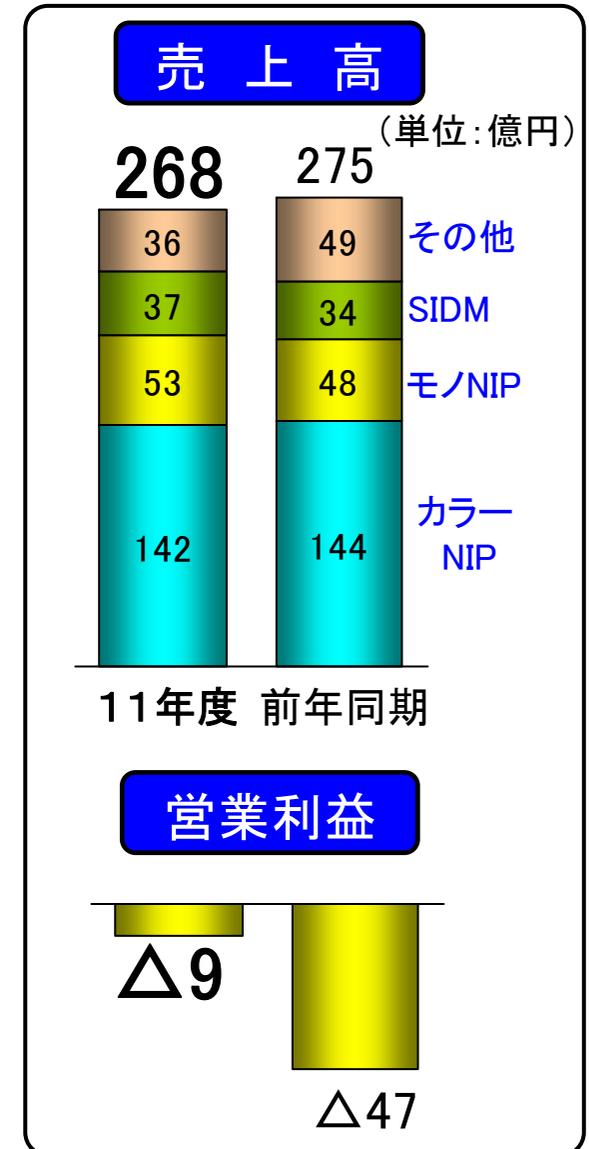
➤ 売上高7億円減収、営業利益5億円増益

■ 売上高: 為替影響を除き前年並み

➤ カラーNIPおよびモノNIP:
主力のA4カラーおよびモノクロ新商品販売は堅調

➤ SIDM:
中国の税法改正の影響などにより増加

■ 営業利益: 為替影響を除き33億円改善
物量増加や機種構成差、調達コスト低減およびVE
に加え、固定費削減効果により、価格下落などを
吸収し改善



NIP: Non-Impact Printer SIDM: Serial Impact Dot Matrix

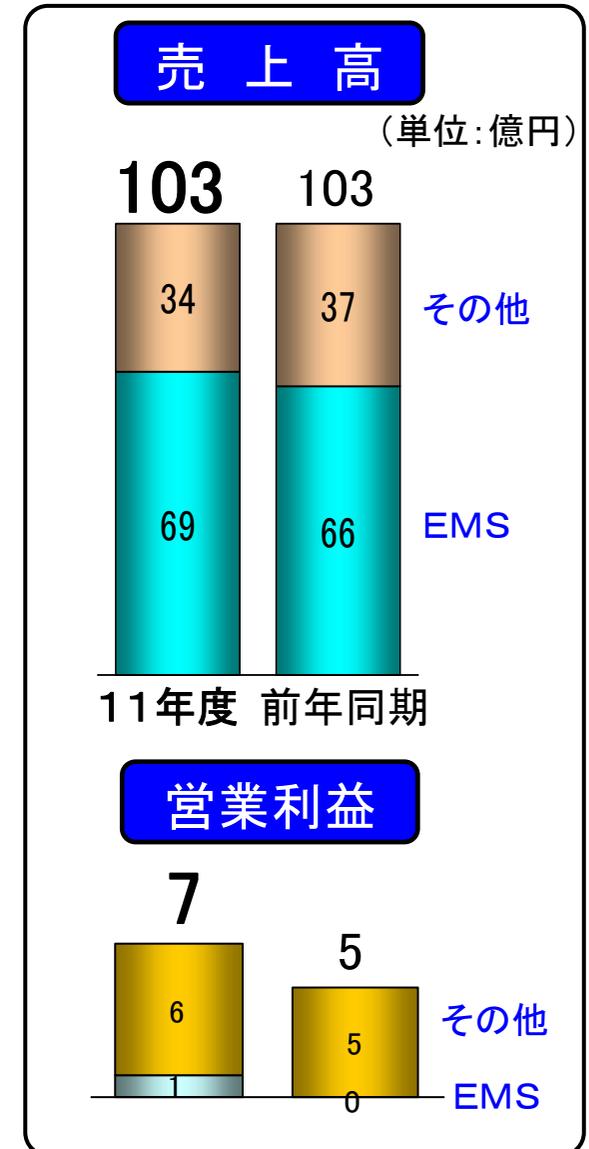
セグメント情報【EMS】・【その他】

■ 売上高

- EMS:
一部部材の入手難や電力供給制約の影響を跳ね返して堅調に推移
- その他:
部品関連事業は堅調に推移したものの、関係会社の選択と集中の影響などにより減収

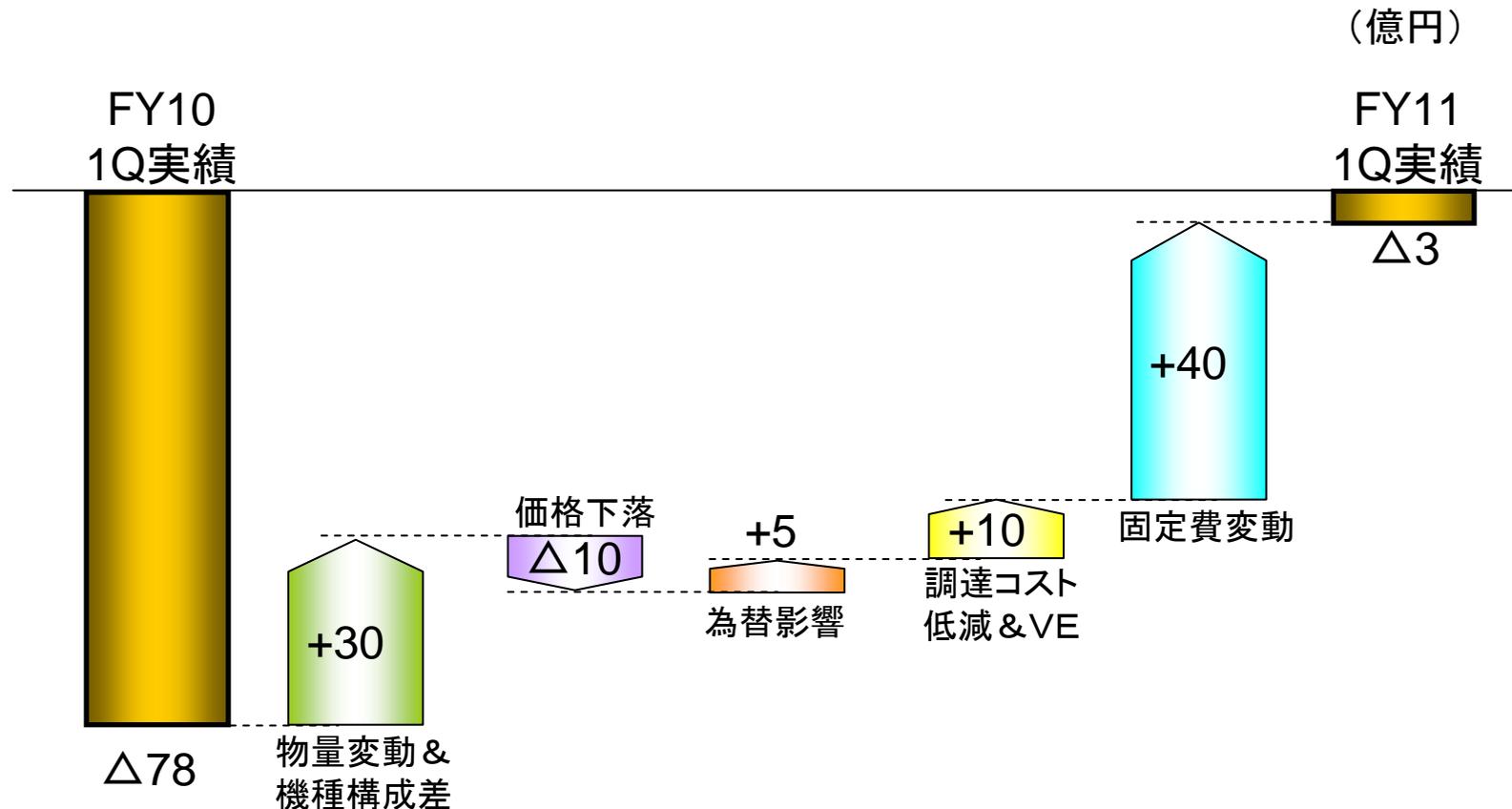
■ 営業利益

物量変動および機種構成差などにより、2億円増益



営業利益の変動要因

- 物量増加や機種構成差、調達コスト低減およびVE、円高差益などに加え、固定費削減効果により、価格下落などを吸収し、75億円改善



P/Lの概要

(単位:億円)	11年度	前年同期
売上高	838	825
売上原価	623	648
販管費	218	255
営業利益	△3	△78
営業外収支	△6	△12
経常利益	△9	△90
特別損益	△4	△4
税引前利益	△14	△94
当期純利益	△32	△105

【対前年比較】

- 原価率は78.5%→74.4%となり、4.1ポイント良化
- 販管費は、固定費削減効果などにより減少
- 営業外収支は、支払い利息や為替差損の減少などから良化

【参考:平均為替レート】

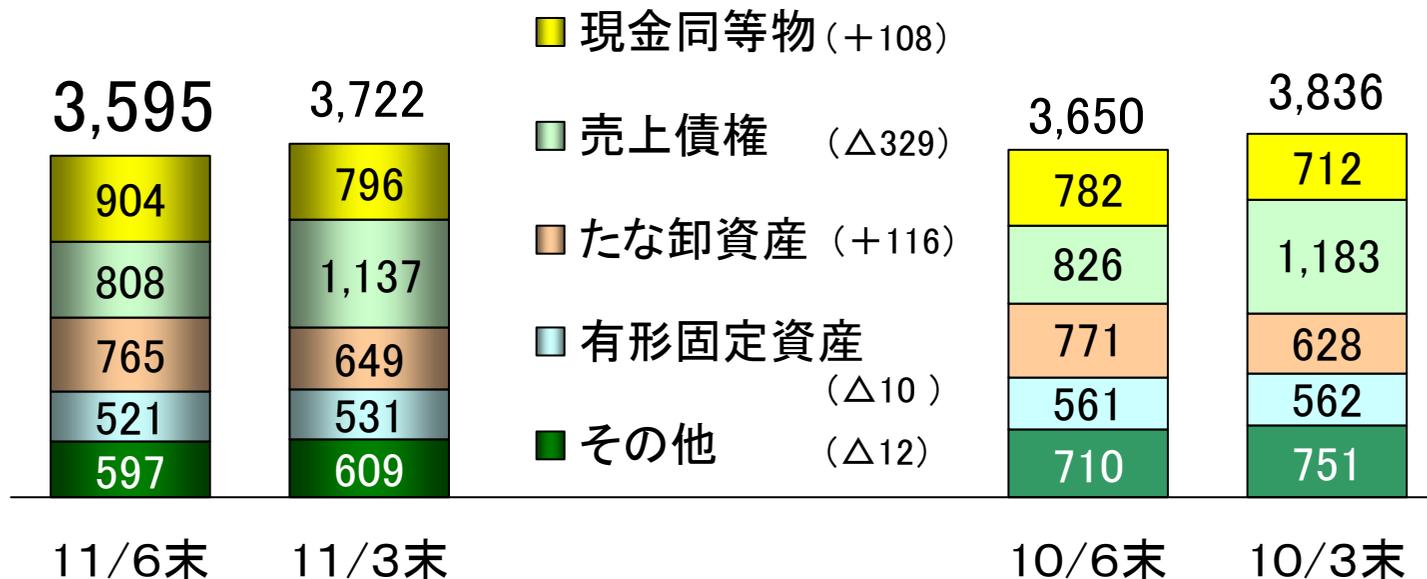
	11年度Q1	前年同期
USD	81.8	92.0
EUR	117.4	117.0

B/Sの概要【資産の部】

- 売上債権の減少などにより、総資産は127億円減少
- 現金同等物は108億円増加
- 例年通り、前年度第4四半期の売上高が大きいことから
 売上債権は3月末に増加し、当四半期に現金等で回収されるため6月末に減少
 たな卸は3月末に減少し、当四半期には生産平準化等により6月末に増加

(単位:億円)

()内は増減

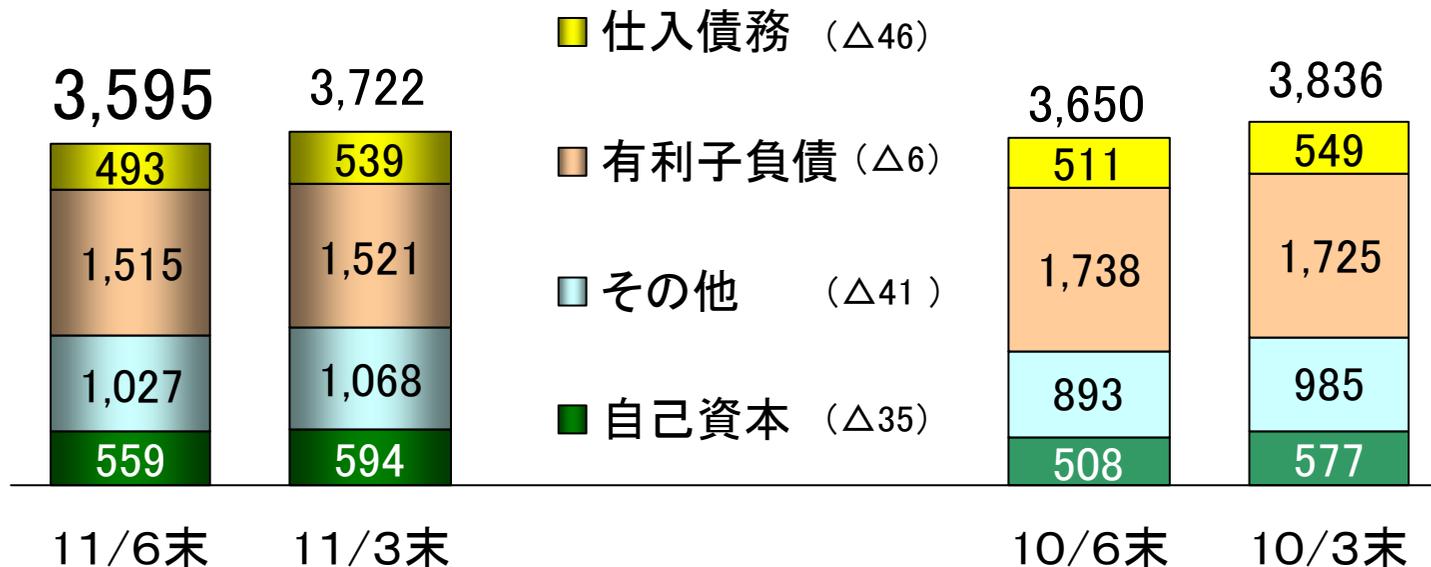


B/Sの概要【負債・純資産の部】

- 自己資本は当期純損失とその他の有価証券評価差額金の減少などにより減少
- 有利子負債は6億円減少。NET有利子負債は113億円減少し611億円

(単位:億円)

()内は増減



キャッシュフローの概要

- 営業キャッシュフローは、当期純利益の改善などにより134億円の収入

(単位:億円)	11年度	前年同期	備考
I 営業キャッシュフロー	134	66	
税金等調整前当期純利益	△14	△94	
減価償却費	30	34	
運転資金の増減	141	159	
その他	△23	△33	
II 投資キャッシュフロー	△18	△10	
設備投資支払額	△17	△18	
その他投資活動	△1	8	
フリー・キャッシュフロー(I + II)	116	56	
III 財務キャッシュフロー	△9	12	
キャッシュフロー計(I + II + III)	107	67	
現金同等物等の期末残高	904	782	

本日のご説明内容

1. はじめに
2. 第1四半期決算について
 - 1-1) セグメント情報
 - 1-2) 営業利益の変動要因
 - 1-3) P/Lの概要
 - 1-4) B/Sの概要
 - 1-5) キャッシュフローの概要
3. 第2四半期累計期間 業績予想について

第2四半期累計業績予想について

- 1Qと同様に金融・官公向けなどのベース事業は堅調に推移して安定的な収益を確保する見込み
成長性の高い市場でのシェア拡大や新商品／新サービスの開発・展開の取り組みを加速
- 調達コスト低減およびVEなどに加え、固定費削減効果により、価格下落や処遇適正化の影響などを吸収し、営業利益は対前年で大幅改善の見込み

(単位:億円)	第2四半期 累計業績予想	前年同期
売上高	1,860	1,859
情報通信	1,070	1,047
プリンタ	555	586
EMS	155	148
その他	80	79
営業利益	0	△57
情報通信	35	13
プリンタ	△20	△49
EMS	5	5
その他	10	8
消去・本社費	△30	△34
経常利益	△15	△79
当期純利益	△50	△117

(参考)	2Q為替前提
USD	85.0
EUR	110.0



Open up your dreams